

「ピースくまもと」設立準備会事務局会 協議資料

～熊本に戦争と平和のミュージアム「ピースくまもと」「くまもと平和祈念館」設立に向けて～
※「戦争と平和の資料館 ピースあいち」開館10周年記念誌『希望を編みあわせる』「第四章 資料・年表」が基礎資料。 ※7/23部会協議内容を、永田・三隅・高谷が修正し作成

「熊本に〔標記：戦争と平和、平和〕のミュージアム設立の基本構想（案）」

熊本に戦争と平和のミュージアム設立を呼びかける会 ○○年○月

1 設立の趣旨

○○年○月、アジア・太平洋戦争2020年8月、第二次世界大戦が終わってから、早くも75年近い歳月が流れました。

今日、日本は平和で豊かな国になったといわれています。たしかに戦中、戦後の時代を知っている人にとっては、この半世紀の日本の繁栄には目をみはるものがありますが、その反面、戦争は遠いものとなり、日本の社会全体が過去の戦争のことを忘れ去ろうとしています。戦争体験者は次第に少なくなりだけでなくその遺族も高齢化しており、遺族が大切に保管していた戦争に関する資料も散逸しつつあります。

しかし、日本にとって今世紀最大の出来事であり、平和な社会と繁栄の出発点となったあの戦争の実態実相や愚かさ、戦争が残した計り知れない教訓を日本の歴史の中にしっかりと残し、次の世代の子ども達に伝えることは、二十世紀に生きた現代に生きる人間共通の責務であります。それは、戦争でなくなった人々への鎮魂であるとともに、再びわれわれが戦争の参禍をひき起こさないようにし、次の時代の平和の基礎を築くことでもあります。

世界のあちこちで、今なお戦火は絶えることなく続いており、人類全体にとって戦争は決して過去のものになっていません。

今、全国各地で、戦争に関する資料の収集・保存・展示と平和研究のための施設が次々とつくられています。大阪には「ピースおおさか」というすばらしい施設が開設され、京都には「国際平和ミュージアム」が、その他にも埼玉県平和資料館、川崎市平和館が建設され、神奈川県にも大規模な国際平和館の建設が計画されています。

これまで私たちの愛知熊本県でも平和を願い、戦争体験を語り継ぐさまざまな努力が重ねられてきており、戦争に関する資料がまだ多く残っています。戦後75年を機に、県民・市民がそれらを有効に利用できるように集約し、戦争の体験と教訓を次の世代に伝え、国際平和について生涯学習と研究を考える平和学習の拠点となるような施設の建設に着手することが強く望まれます。

2 施設の目的と機能

上記のような趣旨のもとに設立される施設は、

- 第一に、戦争と平和に関する歴史的資料の収集と保存の場として、
- 第二に、県民・市民が戦争の事実と平和について学習をし、平和を希求する思索と行動の発信の場として、
- 第三に、平和に関する国際交流、情報の収集と発信、市民・諸団体の交流の場として、
- 第四に、戦争と平和に関する調査・研究の場として、
- 第五に、戦争犠牲者に対する追悼・祈念の場として、十分に機能するものであることが望まれます。

3 施設の特徴と性格

上記の機能を果たすために、愛知に建設される施設は次のような特徴と性格を持つものが望ましいと思われれます。

(1) 平和のシンボル性次世代の子ども達へ

平和を希求する県民の学習の場、集いの場、シンボリック施設になるようなものが望まれます。そのためには、県民・市民とくに小・中・高生が利用しやすい交通の至便の場所に建設され、建物や展示構成にも小中学生から戦争体験者まで幅広い年齢層の要求に応えるような工夫が必要であります。豊富な資料や物によって戦争の事実を生々しく語

らせるとともに、視聴覚に訴える**デジタル技術を活用した**展示方法によって、分かりやすく興味あるものにすることが大切です。「ピースおおきか」のように、学校教育、家庭教育、県・市町村の職員の研修、生涯教育の場として多くの人に利用され、県民・市民が「平和を考えるのによい場所をつくってくれた」と思えるようなものを目指すべきであります。

また、~~展示されるものはどうしても暗いものになりますから、建物はデザインの美しい明るいイメージのものにし、植え木や花壇のある中庭を配置するなど~~利用者が休憩したり、談話したりする空間があることが望まれます。世代間の対話が困難な時代ですから、大人と子供、老人と子供など異なった世代が戦争と平和を語る場になるよう工夫が必要と思います。また、多目的ホールを併設して、**講演、演劇、音楽**などを通じて平和の尊さを感性に呼びかける**催し**なども**活動**ができるとよいと思います。そして県民・市民が何らかの形で運営に参加・協力できるものにするによって、施設はいつそう身近な存在になることが期待されます。

(2) 歴史的な客観性と総合性

十五年戦争(アジア・太平洋戦争)については、**戦争に関する**資料は、収集においても展示においても、常に客観性と総合性が求められるべきであります。この種の施設は、戦争の被害の側面、加害の側面のいずれを重視するのかという議論がなされることがありますが、戦争は決して一面のみをことさら強調すべきではなく、**熊本**県に建設される**施設**においては、「戦争の事実を正確に伝えること」を最大の目的とし、客観的かつ総合的なものでなければならぬと思います。そのためには、現代の日本における学問的に最高レベルの研究者の協力を求めて、その指導のもとに計画を進めることが肝要であると考えます。

また、戦争を庶民の側からとらえ、普通の国民にとって戦争とは何であったのかということにも重点をおいた構成が良いと思います。戦前・戦中における軍国主義の国家体制のもとで、国民・県民がどのような生活を強いられたのかをいろいろな角度から取り上げる構成が望ましいと考えます。

(3) 熊本の特殊性

熊本に建設される施設として、地域の特性を十分表現したものであることが望まれます。**熊本県は、西南戦争の激戦地であり、政府の本陣営が設置された場所であることや九州の中心地であることから、早くから軍の主要設備が設置され軍都として繁栄した歴史があります。一方で、西南戦争においては、敵味方区別なく博愛の精神で自発的に救護を行った日本赤十字の発祥の地という特殊性もあります。ことやることから立地条件や科学技術の本準が高かったことから、軍需産業が発達し、とくに飛行機産業のメッカであったこと、そのため空襲被害がとりわけ甚大であったなどの特徴があります。また〇〇県は、学徒とくに中学生、女学生の学徒動員が多かった地域で、多くの学徒が空襲などで死亡しており、予科練志願者の数も多いなど教育面においても愛知の特殊性があります。私たちの熊本が二度と戦争体制を支える地域にならないようにするためにも、また、平和活動発祥の思いを継承するためにも、このような熊本の特殊性が十分表現されることが望まれます。**

(4) 国際性平和と公正をすべての人に

これから建設される施設は、**SDGs に掲げている通り、持続的に平和と公正をすべてのひとに与えるべく**国際性を持つものであることが要請されています。施設の究極のテーマは平和な国際社会を築くことであり、また**熊本**県は今後国際的にも発展する地域でありますから、建設される施設は普遍的かつ**公平**で国際的な視点を有するものでなければならぬと思います。この施設は、**熊本**県民が過去の戦争をどのように歴史に残そうとしているのかを国際社会に示すものでありますから、その内容は国際的に通用するものでなければならず、また現在国際社会が抱えている、飢餓と貧困、差別、人権抑圧、環境破壊など広い意味での平和の課題に対しても目を向けたものであることが望まれます。他国の若者と日本の若者が共に考え、コミュニケーションを培う場として利用されることが望ましいと思われま。

(5) 調査・研究性、情報センター性

平和のための研究機関として、将来、成長発展していく施設であることが望ましいと思います。単なる戦争博物館では若者の関心をひくものにならないのではなく、戦争と平和をテーマに過去・現代・未来を結び付ける内容をもった施設(参考、~~シンガポール~~国

立博物館) にすることが必要です。そのためには第一級の研究者を委嘱又は客員研究員として迎え、そのもとに若い研究者を育て、広い情報収集能力、情報発信能力をもった平和科学研究センターとして発展していくものになれば、全国でも有数の特徴ある施設になると思われます。また、県民の、あるいは学校、社会教育センターなど各種団体の要求にこたえる情報提供のセンターとして機能することが期待されます。そのためには、組織面や運営面で窮屈にならないようにし、将来**持続的且つ**成長していく可能性を保障する施設にすることが望まれます。

(6) 犠牲者追悼と平和祈念

戦争犠牲者への追悼や平和を祈念する性格のものであることが求められます。戦争の事実を正しく後世に伝えることは戦争犠牲者に対する最大の鎮魂であります。さらに施設の中に戦争犠牲者への追悼と平和祈念のための場を設けることができれば、いっそう良いと思われます。普通は追悼碑とか祈念の像などが考えられますが、ワシントンのホロコースト博物館の屋上のフロア(いつもろうそくが灯されていて、人々が静かに祈りを捧げている)のようなメデイテーション(瞑想) **人々が個々の平和について思いをめぐらすことが出来る**空間を設けることが考えられます。

4 施設の機能と建物計画

施設の機能を十分果たすために必要と思われる建物計画は次のとおりです。ただし、最初からすべてを完備することができない場合は、将来完備できるよう当初から全体計画の中に組み込まれていることが望ましいと思われます。

(1) 建物整備各室等

収蔵室・整理作業室	展示室(常設展示、企画展示)	・展示準備室
映像収録室	図書室	資料室・書庫
研究室	研修室	映像鑑賞室
会議室		ホール(多目的)
ミュージアムショップ		休憩室
広場・ロビー	談話室	駐車場
事務室	管理業務諸室	慰霊碑・モニュメント
追悼広場・瞑想空間		

(2) 施設の機能

収集・保管機能	展示機能
研究機能	学習・啓発機能
交流機能	事務・運営機能
追悼機能	

5 展示構成

施設の設立趣旨にもとづいて展示の構成を考えると、大きく「愛知における戦争」「十五年戦争(アジア・太平洋戦争)の事実と様相」「国際平和と現代」「**熊本空襲**」「**熊本県の戦争の歴史**」「**次世代が学び、体験し、伝える**」というような三つのジャンルに分けられます。

それらのジャンルに分類される展示の項目を列举すると以下のようなものになると思われます。

(1) 熊本空襲

愛知**熊本**における空襲、科学技術の先進性と軍需産業、単部隊・軍施設、朝鮮人連行、学従動員、学童疎開、軍国教育、反戦運動

(2) 熊本県の戦争の歴史十五年戦争(アジア・太平洋戦争)の様相・事実

戦争前史、**博愛社(日本赤十字の前身)の発祥**、**軍都熊本**、戦前の世界情勢「日本の国家体制と戦争への過程、アジア太平洋地域での戦争の推移(戦史)／日本の加害行為の実態、占領地支配、抗日運動／日本における戦争被害の実態／広島・長崎への原爆投下、沖縄戦／戦時の国家体制(経済・産業体制、法体制、軍事体制、地域体制、情報・報道状況、人権状況)／戦時の国民生活/軍隊生活と戦場での兵士の犠牲/反戦運動/戦争終結と戦後処理

(3) 次世代のために国際平和と現代の課題

第二次大戦後の戦争／冷戦と核軍拡競争／軍縮の努力／冷戦終結後の戦争／国際社会と日本、国連の役割／貧困、飢餓、差別、人権抑圧、環境破壊の克服への国際協力／平和連動と非暴力思想／平和のための国際連帯／熊本県における平和への課題(平和教育

・戦争を語りつぐ実践など)

6 施設の全体規模

以上のような施設を建設するためには、相当広い敷地と建物が必要になり、建設費も多額になると思われます。また子供から老人世代まで利用しやすいように、地下鉄駅から公共交通機関か、徒歩で行けるところが望ましく、~~県市の施設が多い東山公園、名古屋城・名城公園周辺、白川公園周辺、鶴舞公園周辺などがとくに望ましい場所ではないか~~と思われます。

参考までに、これまでに建設された代表的な施設の全体規模を下の表にまとめました。この施設はいわば20世紀と21世紀をつなぐシンポル的な施設となるものであり、~~世代をつなぎ、国をつなぐものでもあります。また戦争と平和をテーマに愛知熊本では初めて建設される施設であり、県民のみならず中部圏の多くの人々に利用される施設でありますから、ぜひ、他の地域に恥じない高いレベルのものが建設されるよう望まれます。~~

[例の提示]

ピースおおさか	大阪城公園		
建物面積：3483 m ²	地上3階	展示室面積：886 m ²	敷地面積：2513 m ²
建設費	25億円		
平和ミュージアム	立命館大学		
建物面積：1200 m ²		展示室面積：800 m ²	敷地面積：2513 m ²
建設費	〇億円		